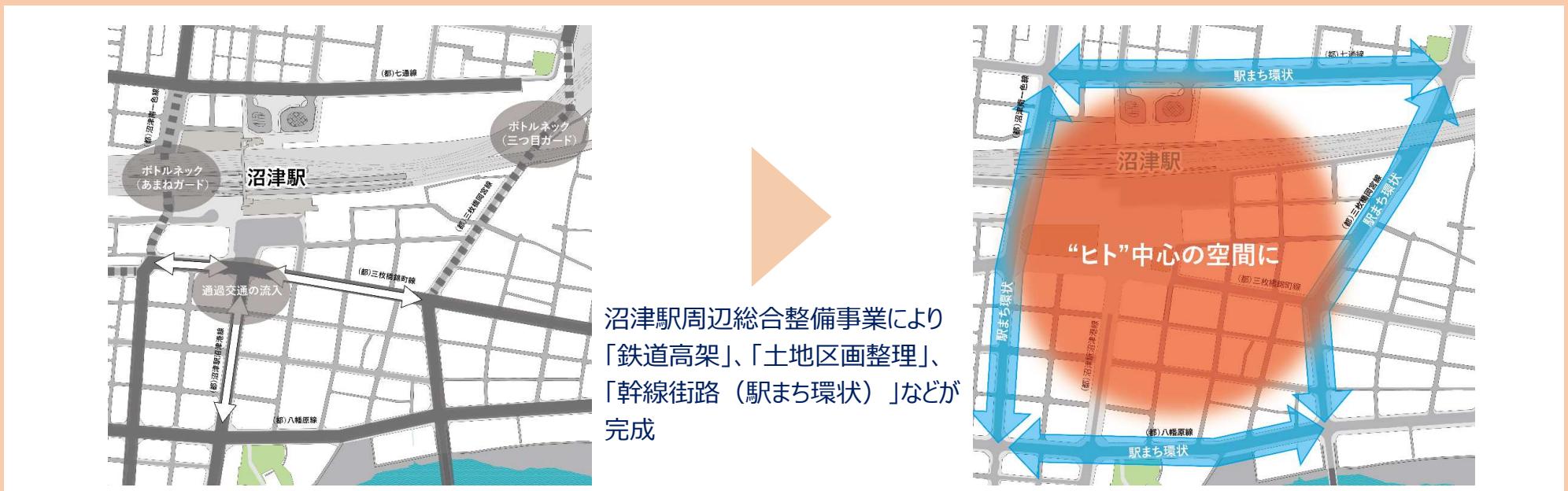


# 沼津駅舎・駅前広場等デザイン検討

令和7年12月1日

## ► 戦 略 I : ヒト中心の公共空間の創出

- 沼津駅周辺総合整備事業により、駅と隣接街区を含む幹線街路ネットワーク（駅まち環状）が形成されるなど、交通環境や市街地構造が大幅に改善
- これらの変化を契機に、「駅まち環状」の内側がヒト中心の市街地となるよう、公共空間の再編とこれを実現するための地区交通体系の再編を図る
- とりわけ、駅前広場やこれに接続する街路について、車中心の空間からヒト中心の空間へと再構築



# ► 戦 略 I : ヒト中心の公共空間の創出

## 方策 1 : 駅前広場の歩行者広場化

- 駅前広場を車中心の空間から、**歩行者のための広場**へと再編

## 方策 2 : 駅周辺の回遊動線の整備

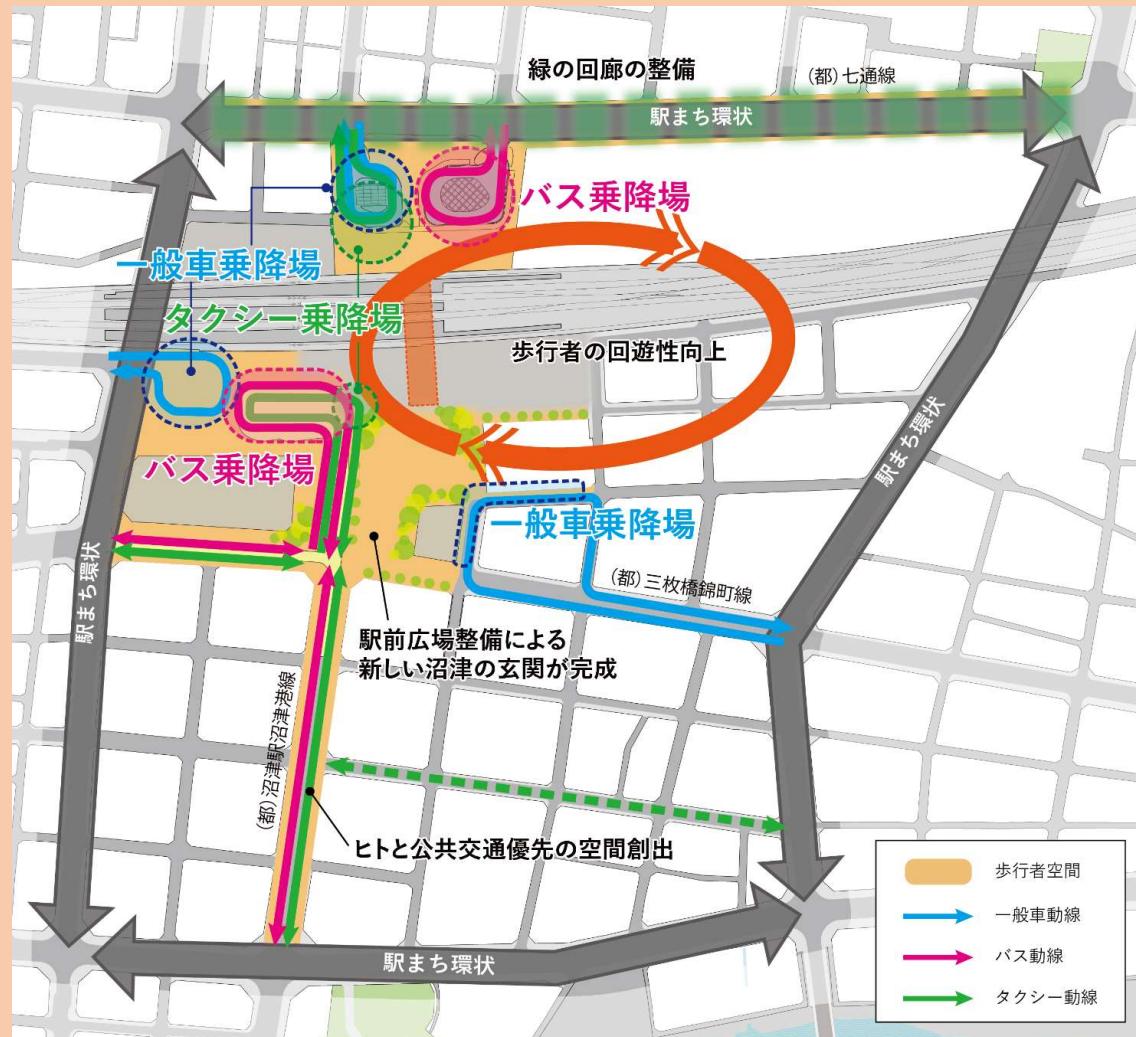
- 駅周辺の有機的な歩行者回遊動線を確保し、**「オープンリング」を形成**

## 方策 3 : 駅アクセス街路の再編

- 南口駅前広場への**アクセス街路の車線数を減らし、歩行者・自転車のための空間を充実**

## 方策 4 : 地区交通体系の再編

- 駅周辺における**交通流の整序**と駅前の**自動車交通負荷の軽減**を図る



〈空間・交通再編のイメージ（試案）〉

# デザイン検討の背景・目的

## ＜背景＞

- 新貨物ターミナルや新車両基地の整備などを進めており、鉄道高架事業は着実な進展が図られている。
- 高架本体工事にあわせて、令和6年度に駅舎・駅前広場等のデザイン検討に着手した。

## ＜目的＞

- 鉄道高架後の駅舎や駅前広場など空間整備に関するデザインの基本的な考え方をとりまとめた「デザイン基本計画」を策定すること。
- 駅舎や駅前広場等の整備は、今後長期間にわたって事業が進められていくものであることから、デザイン基本計画を踏まえて、設計・施工などのそれぞれのフェーズで踏襲すべき羅針盤として活用する。

# 令和6年度の検討

## 〈デザイン検討会議 委員〉

法政大学 福井教授（都市景観）※座長

早稲田大学 田中教授（建築）

福島大学 吉田教授（交通）

名古屋市立大学 大野准教授（ランドスケープ）

商工会議所

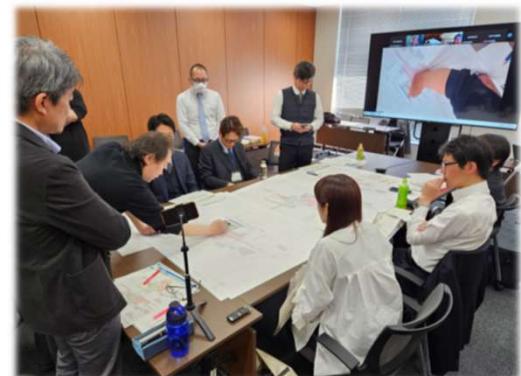
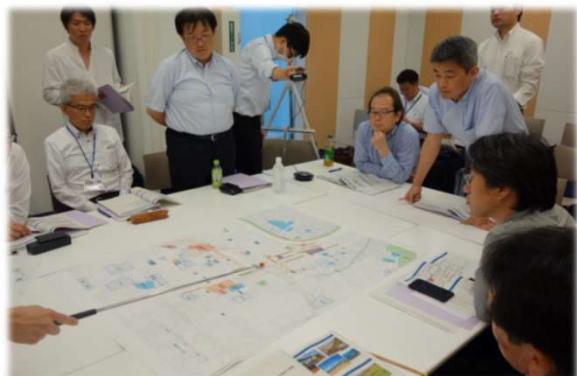
東海道旅客鉄道(株)

UR都市機構

静岡県

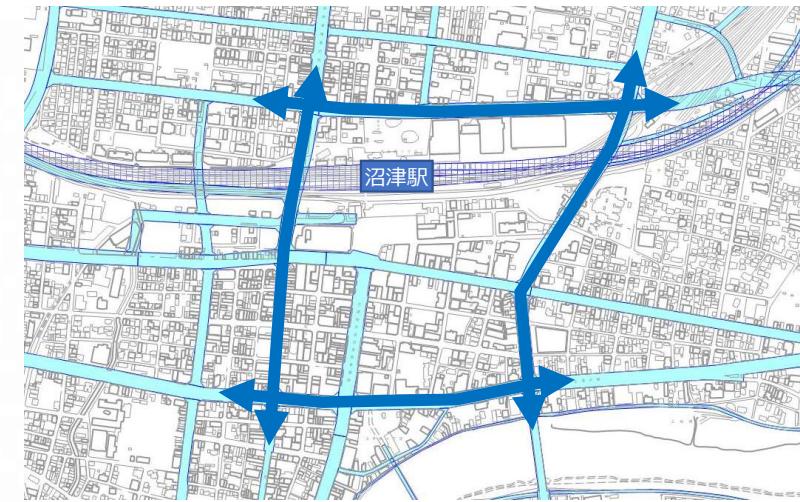
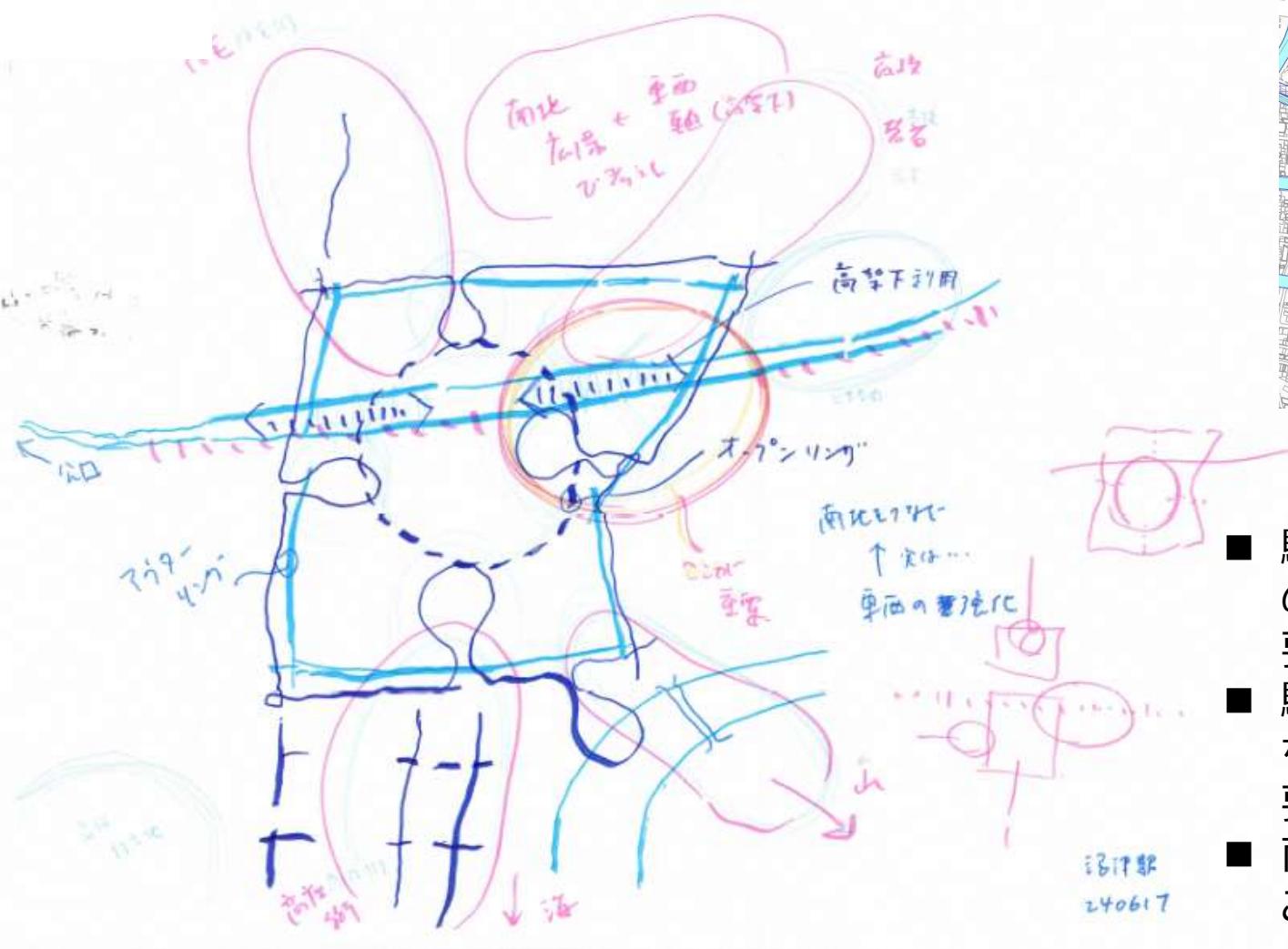
沼津市

日程	主な議論・検討内容
第1回（令和6年6月）	広域とえきまちのあり方
第2回（令和6年7月）	えきとまちの接続・つなげ方
第3回（令和6年9月）	機能配置・交通処理
第4回（令和6年10月）	東西・南北のつなげ方
第5回（令和6年12月）	施設配置
第6回（令和7年1月）	コンコース幅員
第7回（令和7年2月）	デザインコンセプト
第8回（令和7年3月）	プロポーザル実施要領とりまとめ



# 令和6年度の検討

## 〈第1回〉

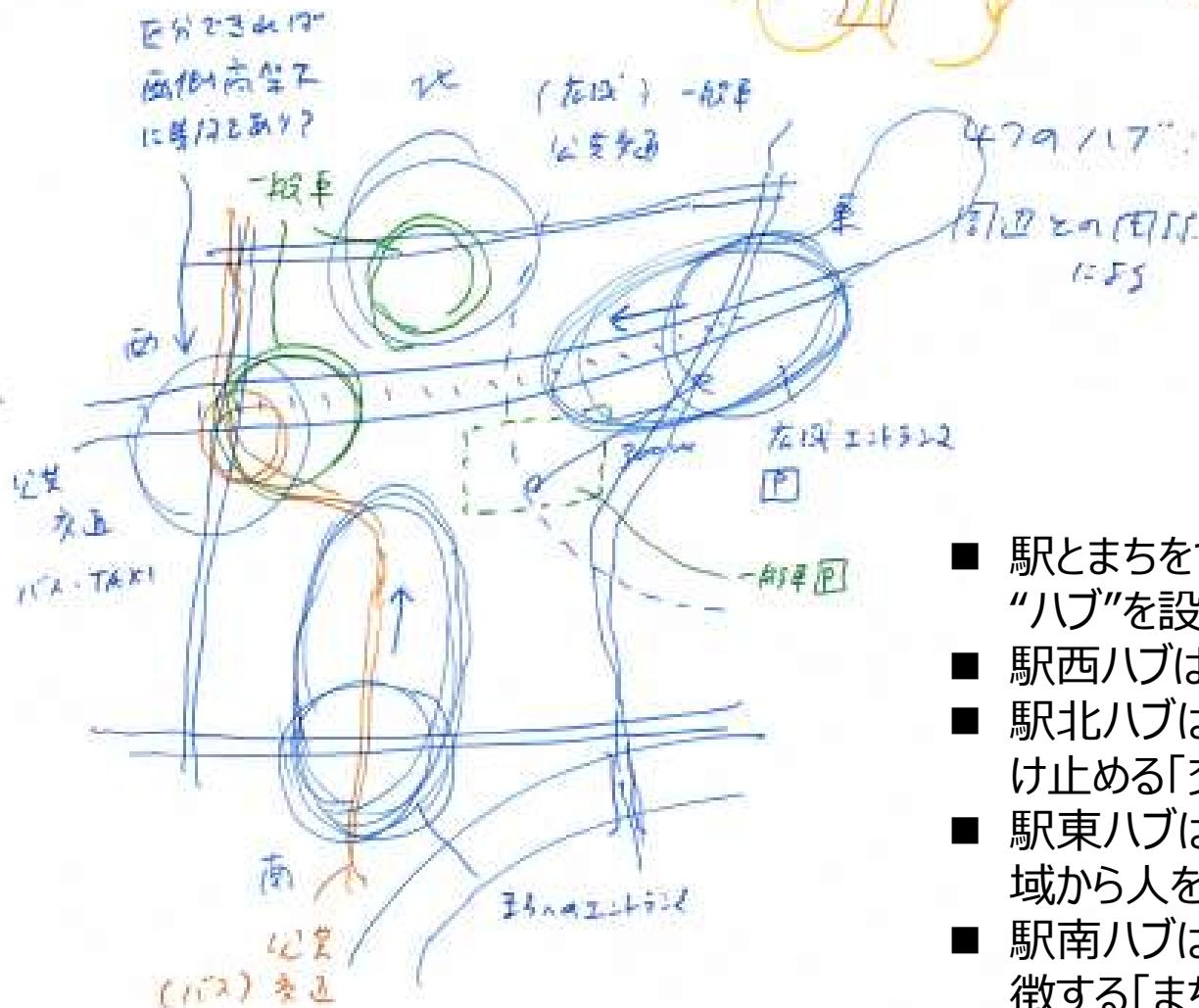


## ＜広域とえきまちのあり方＞

- 駅まち環状とその内側の歩行者ネットワークのつなぎ方（つなぐもののハブ的なもの）が重要である。
  - 駅や南口駅前広場だけでなく、駅北、駅まち環状の内側・外側なども含めて考える必要がある。
  - 南北をつなげようとしているが、東西をつなぐことが、南北強化につながるのではないか。

# 令和6年度の検討

## 〈第2回〉

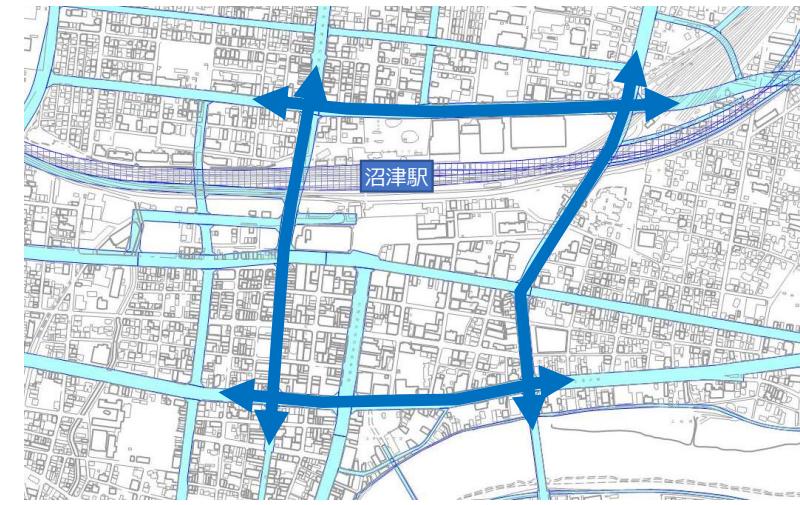
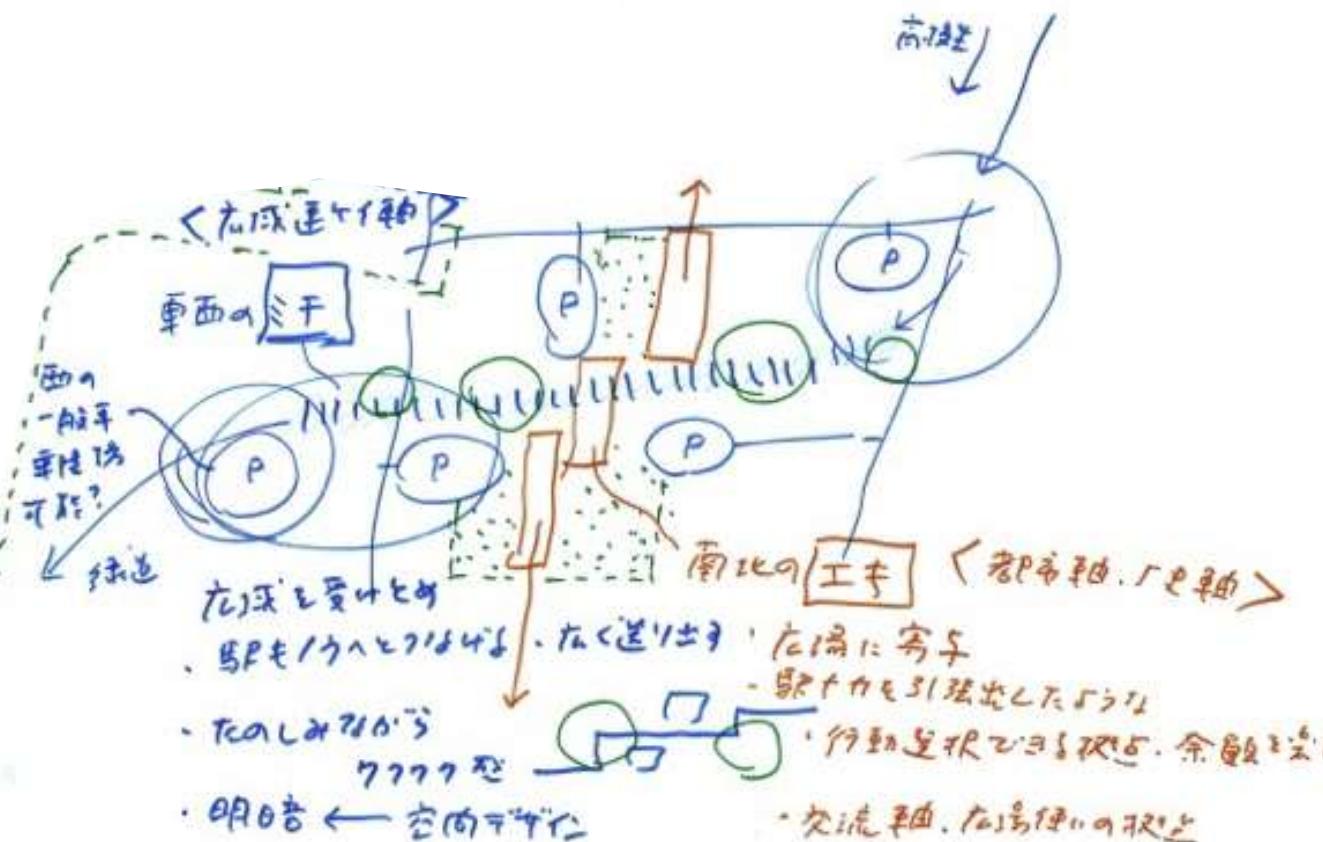


### 【周辺との接続について】

- 駅とまちをつなげるため、「駅西」、「駅北」、「駅東」、「駅南」に“ハブ”を設ける。
- 駅西ハブは二次交通を受け止める「公共交通広場」。
- 駅北ハブは地域的な交通や広域的な交通（高速バス）を受け止める「交通広場」。
- 駅東ハブは新たに整備される街区や高架下空間と連携し、広域から人を呼び込む「広域のエントランス」。
- 駅南ハブは沼津駅への視線の抜けと風格を備えた沼津市を象徴する「まちのエントランス」。

# 令和6年度の検討

〈第4回〉



## 【東西と南北のつながりについて】

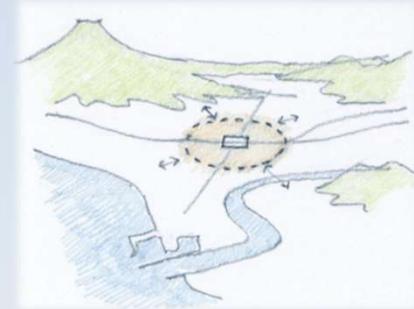
- コンコースやアーバンシェルターにより南北軸を、高架下・軒下公共空間等を活用し東西軸を形成し、駅へ惹きつけまちへ誘う空間とする。
  - 南北は都市軸であり“えき”のような役割を担う。（広場に寄与し、駅ナカを引き出したような空間。）
  - 東西は広域連携軸であり“みち”のような役割を担う。（広域を受け止め、駅へつなげる空間。）

# 令和6年度の検討

## 〈デザインコンセプト〉

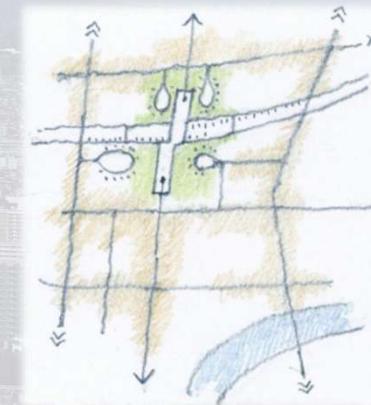
### ①えきとまちがつながる“大きなえき”

- これから生まれ変わる沼津駅とその周辺のまちなどを有機的につなげ、結びつけていくことで、交流を促進させ、新たな魅力や価値を創出し、市民の生活を豊かにすることを目指します。



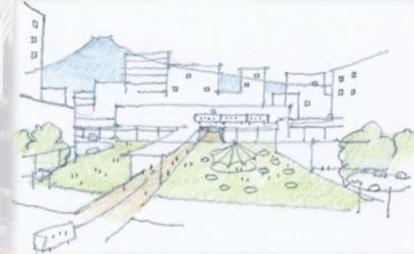
### ②使いやすく、にぎわいのある“えきまち広場”

- 駅や駅前広場等は、単なる移動のための空間ではなく、都市の魅力を引き出す場として、人々が快適かつ楽しく過ごせる空間を目指します。



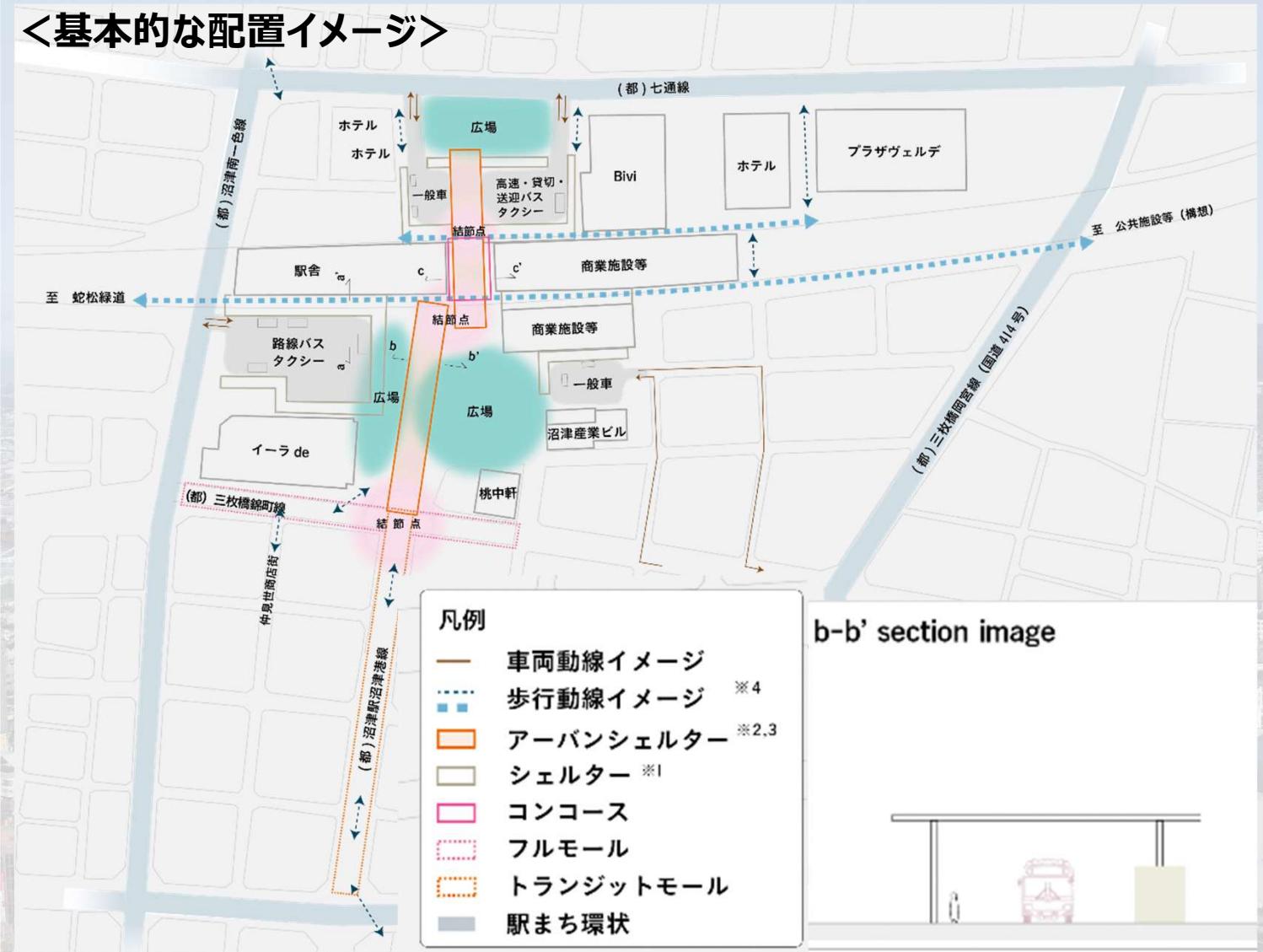
### ③風景と調和し、人々の活動とともにつくる“沼津らしさ”

- 人々の日常の暮らしや文化的な営み、交流、イベントなど、多様な生き生きとした活動を促進させ、ここでしか出来ない、まちの表情を豊かにする個性と風格を感じさせる場をつくります。

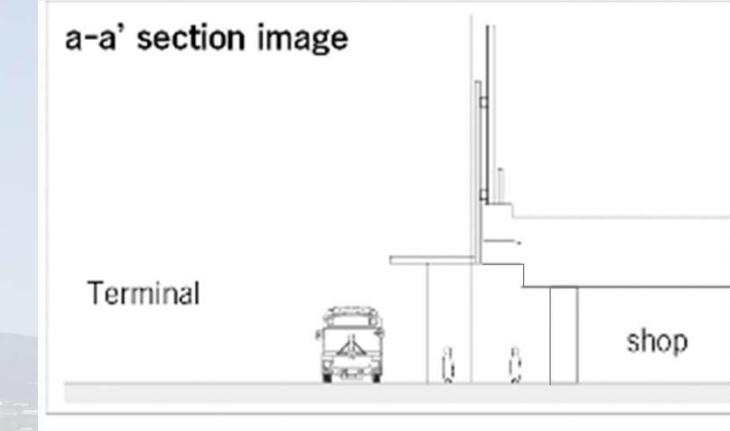


# 令和6年度の検討

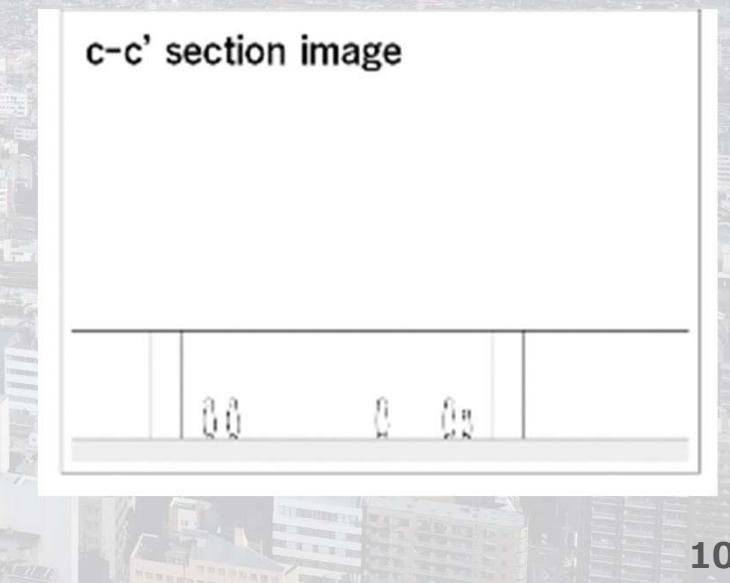
## ＜基本的な配置イメージ＞



a-a' section image



b-b' section image



# プロポーザルの実施

令和7年4月

プロポーザル公募開始

4事業者が参加申込

令和7年7月, 8月

契約候補者選定委員会

「SOCI・日建設計・乾久美子建築設計事務所JV」を契約候補者に選定

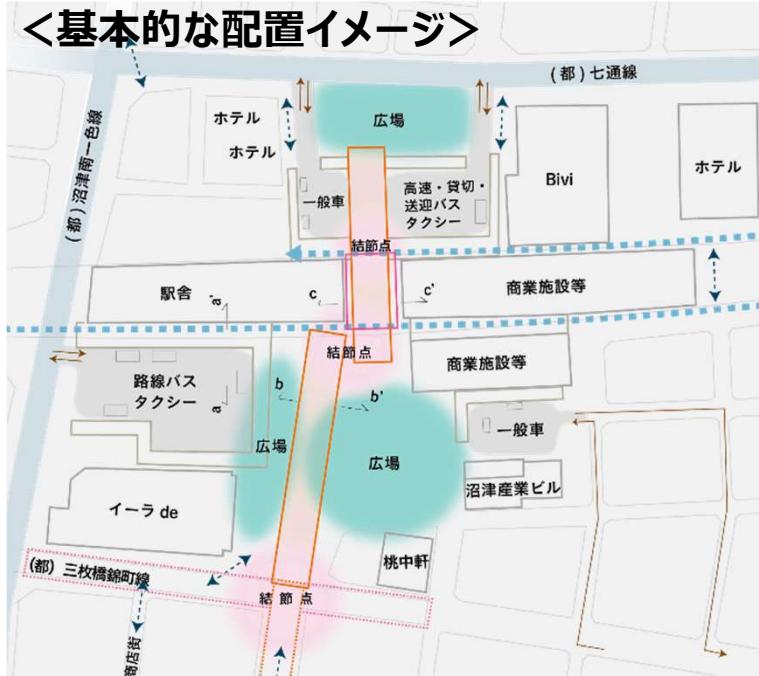
仕様書等の協議・調整

令和7年10月

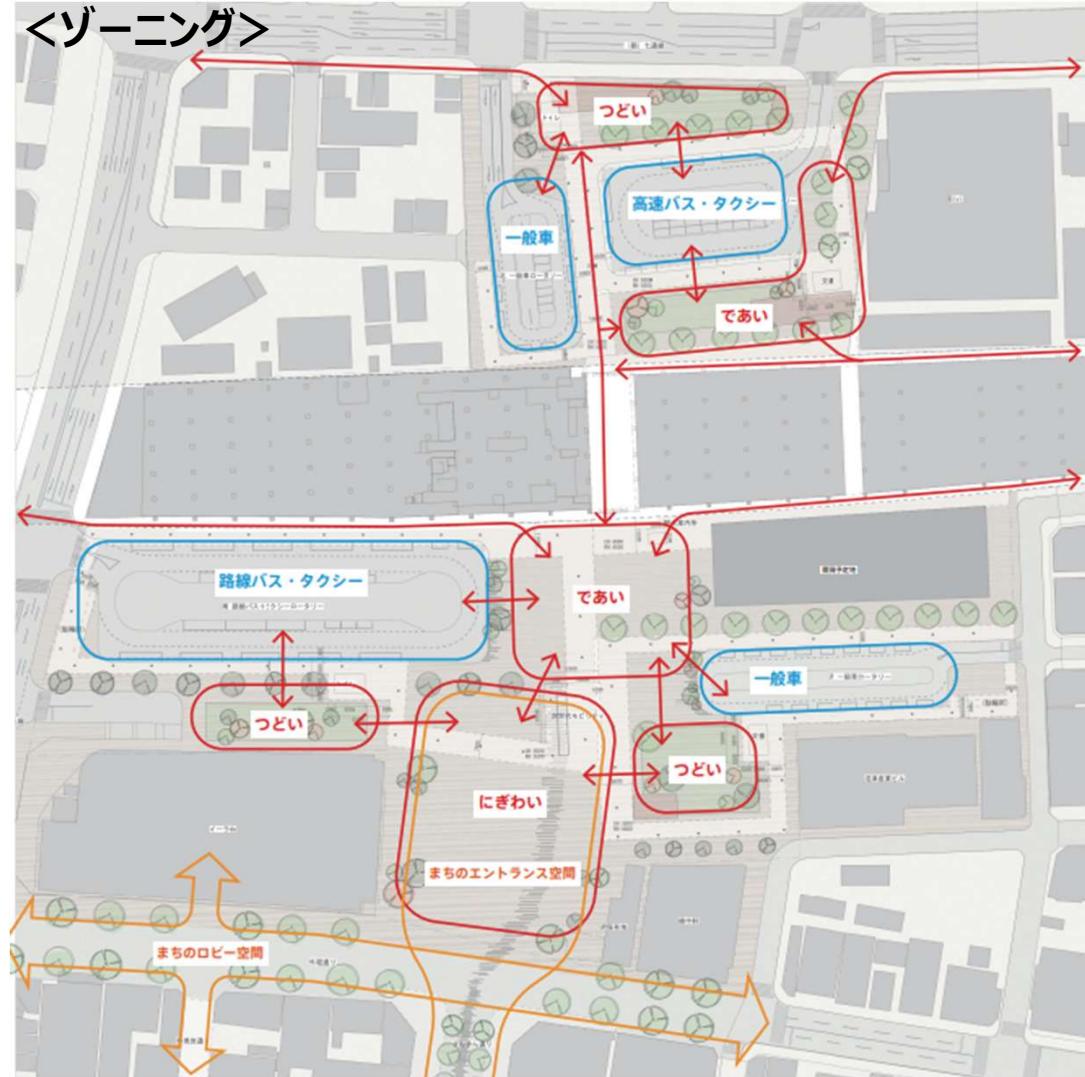
契約締結

# デザイン検討

## ＜基本的な配置イメージ＞



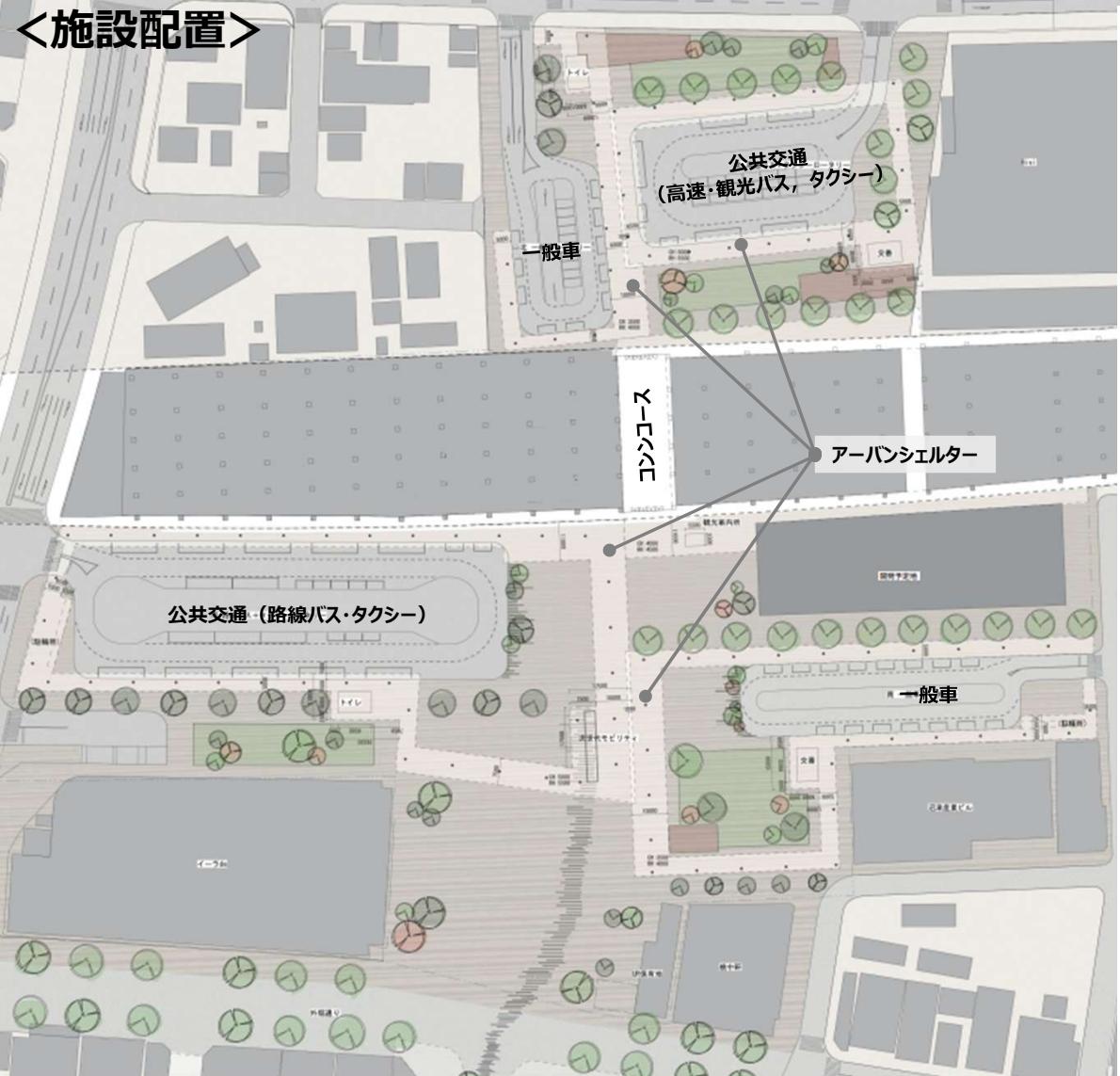
## ＜ゾーニング＞



- 駅、交通広場をつなぐように「であい・つどい・にぎわい」広場を配置する。
  - ・ 「であい」：沼津のまちと出会う広場
  - ・ 「つどい」：日常の居場所として、居住者が滞留するつどい広場
  - ・ 「にぎわい」：沼津のまちの賑わいが日常・非日常も展開する広場
- 南北・東西をつなぐ動線を高架下に配置する。

# デザイン検討

## ＜施設配置＞



## ＜交通＞

- 南口東側に一般車、西側に公共交通（路線バス、タクシー）を配置する。
- 北口東側に公共交通（高速・観光バス、タクシー）、西側に一般車を配置する。
- 駅と港をつなぐ次世代モビリティの導入を想定する。

## ＜アーバンシェルター（大きな屋根のある空間）＞

- 降雨や陽射しを防ぎ、駅・交通広場・広場をつなぐとともに、南北を視覚的・機能的につなぐようにアーバンシェルターを配置する。

## ＜軒下公共空間（高架橋の雨だれ線から内側の空間）＞

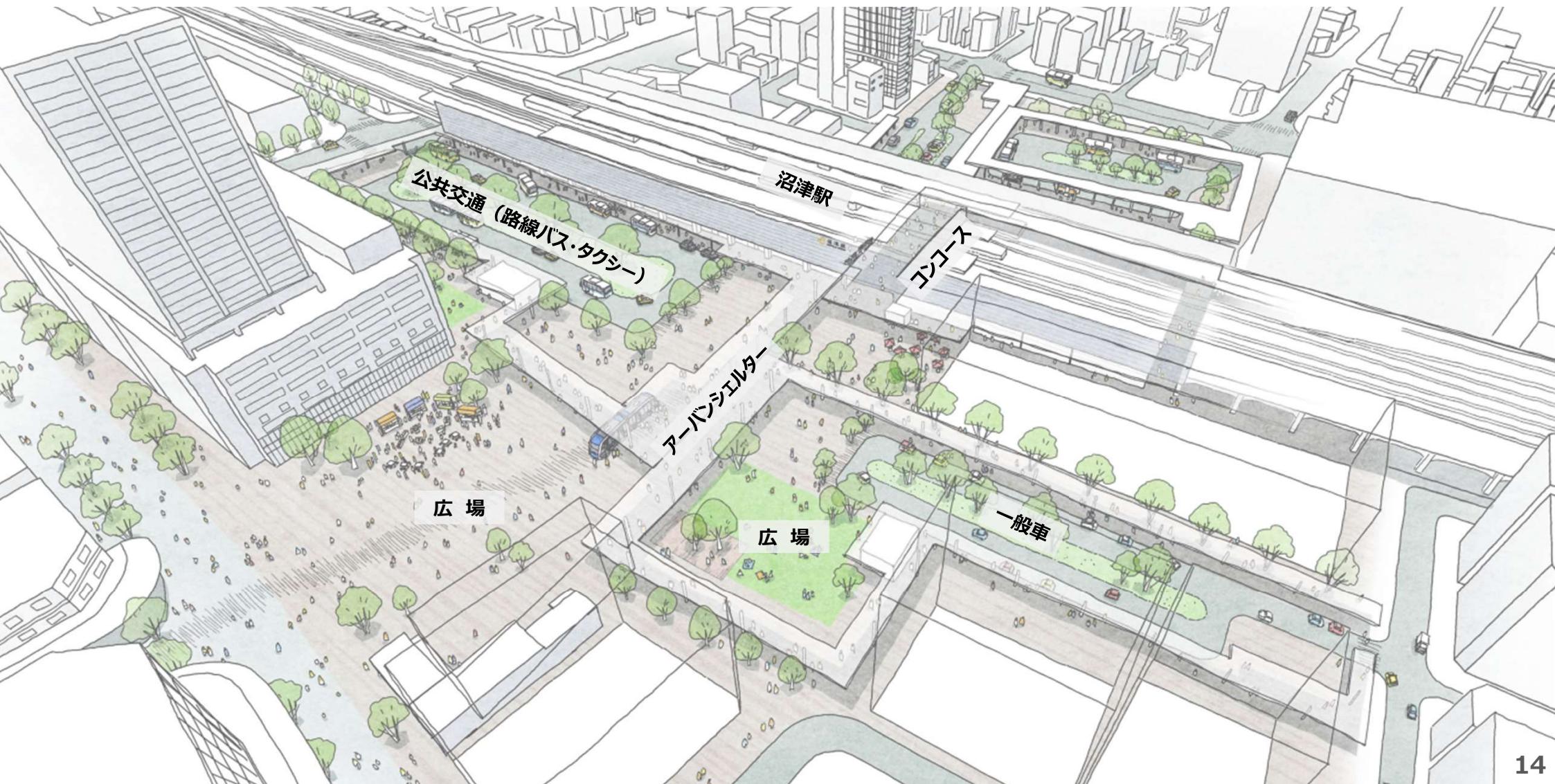
- 東西をつなぐ軒下公共空間（高架橋の雨だれ線から内側の空間）を配置し、高架下やアーバンシェルター等とともに東西軸を形成する。

## ＜広場＞

- 南口・北口にそれぞれ異なる規模で配置する。
- 南口のまち側には、大規模イベント等が開催できる大きなオープンスペースを設ける。

# デザイン検討

～南口鳥瞰～



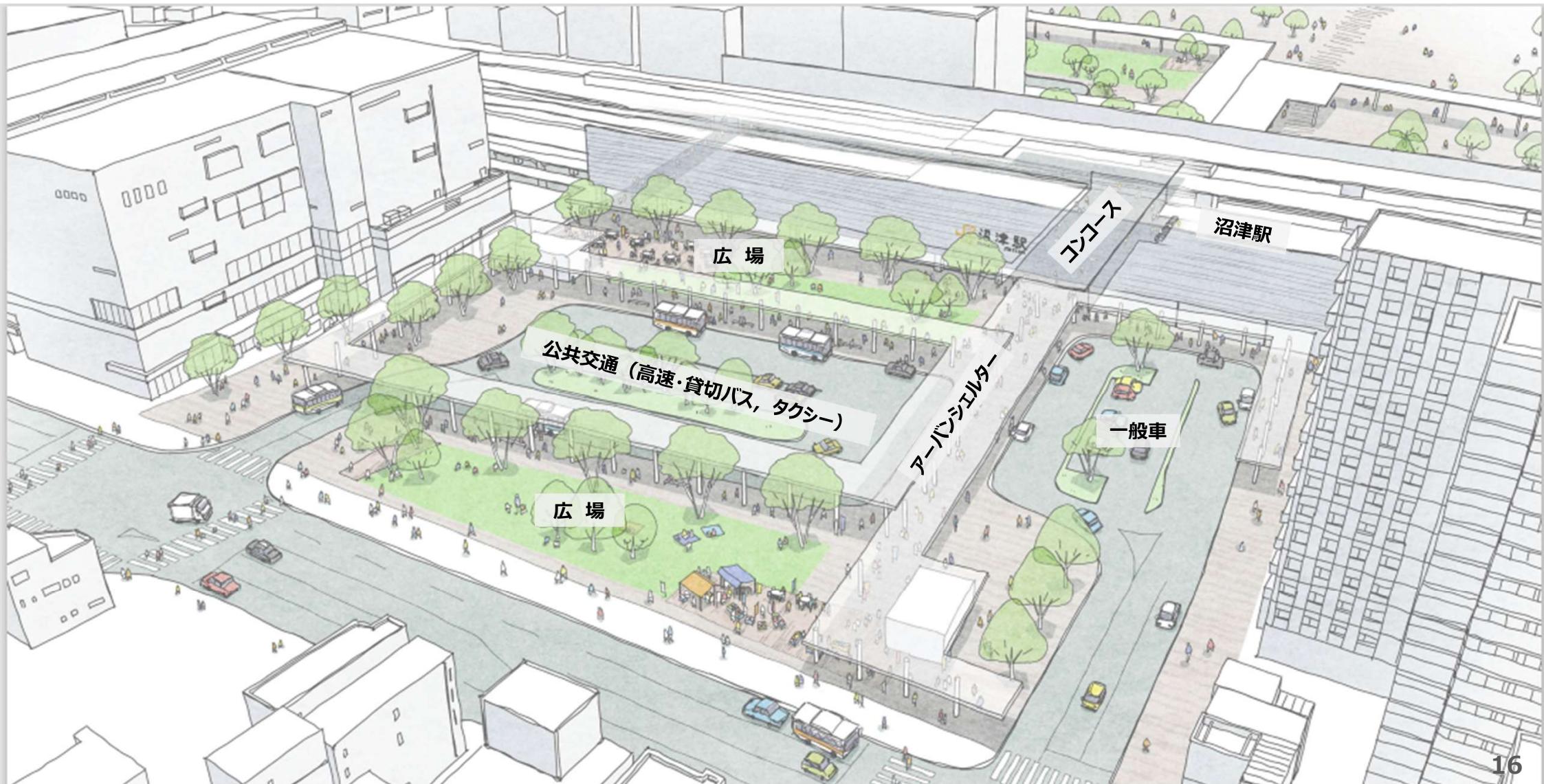
# デザイン検討

～南口（コンコース付近から広場を望む）～



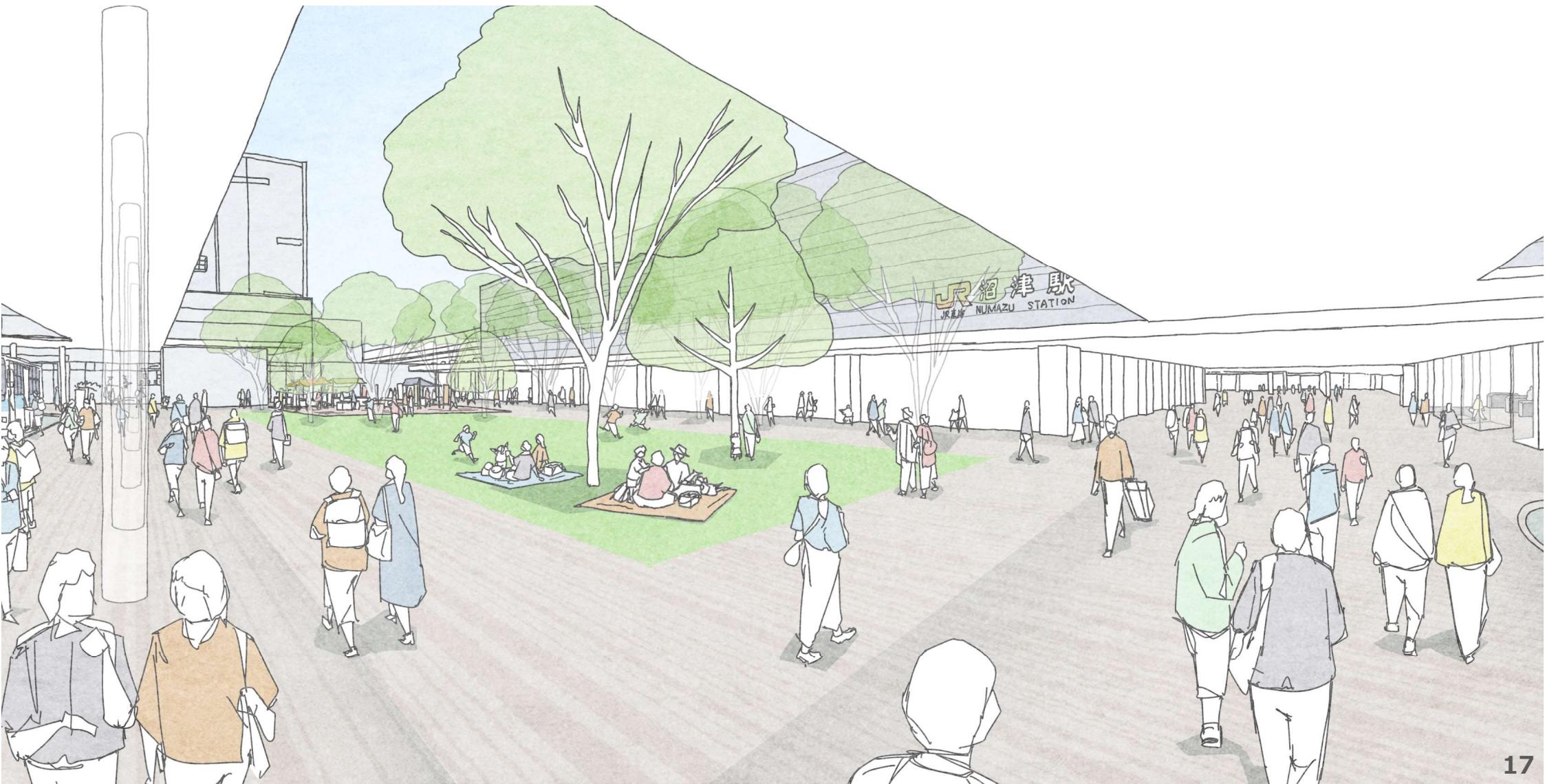
# デザイン検討

～北口鳥瞰～



# デザイン検討

～北口（広場から駅を望む）～



# デザイン検討

## ＜検討課題＞

### ＜東西南北の顔づくり＞

- えきとまちとの接面における“顔づくり”的検討。

### ＜駅舎・コンコース＞

- コンコースやアーバンシェルター、軒下公共空間の一体的なデザインの検討。
- コンコースと駅前広場の床が統一されたデザインの検討。
- 防風スクリーンの検討。

### ＜広場＞

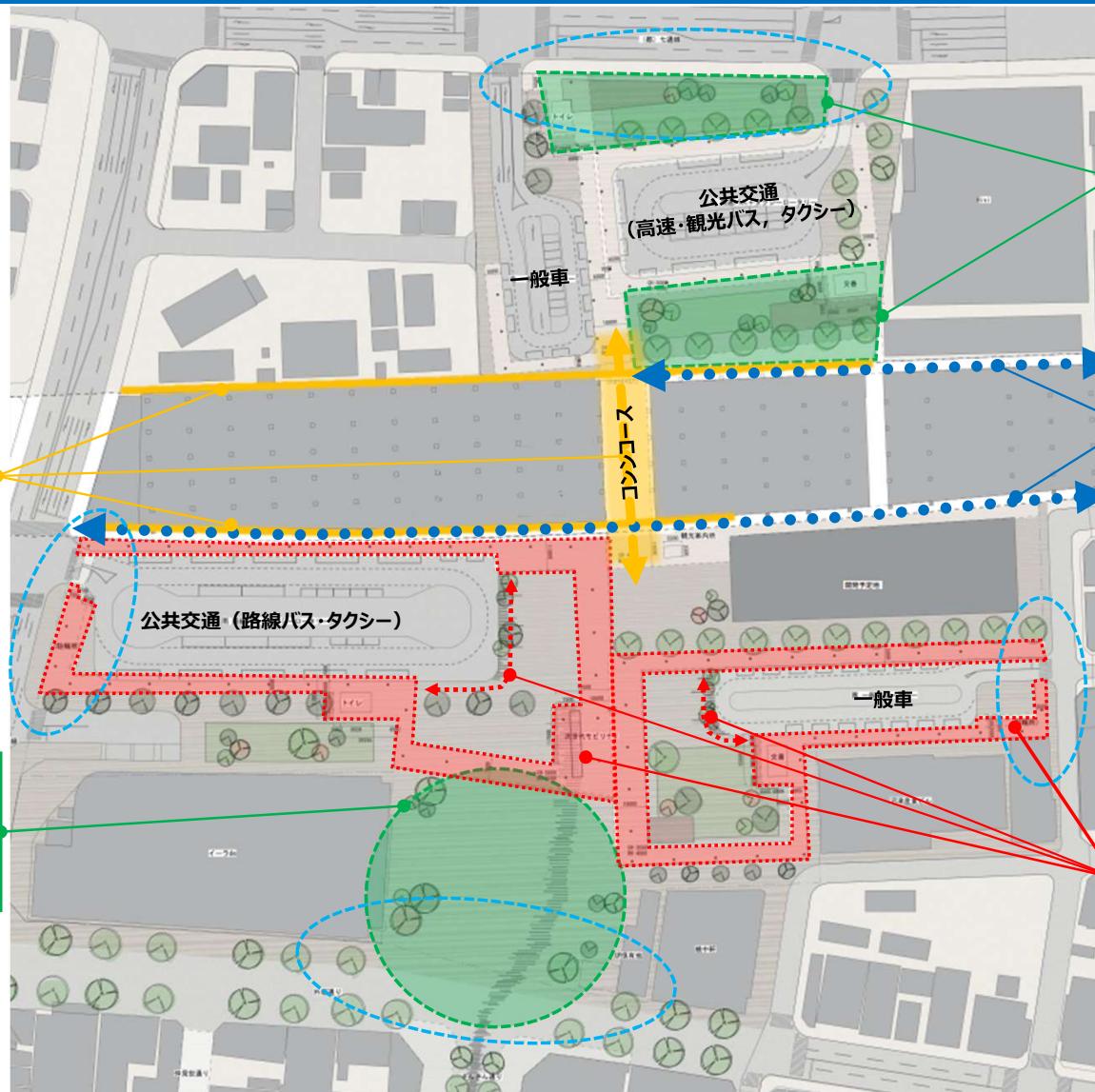
- 広場の快適性の向上を図るみどりの配置の検討。（気候変動に配慮したみどりの配置）

### ＜広場＞

- 現状のイベント利用を踏まえた広さの検討。
- 広場のバランスの検討。

### ＜東西のつながり＞

- 軒下公共空間、高架下、アーバンシェルター等による歩きたくなるような空間づくりの検討。

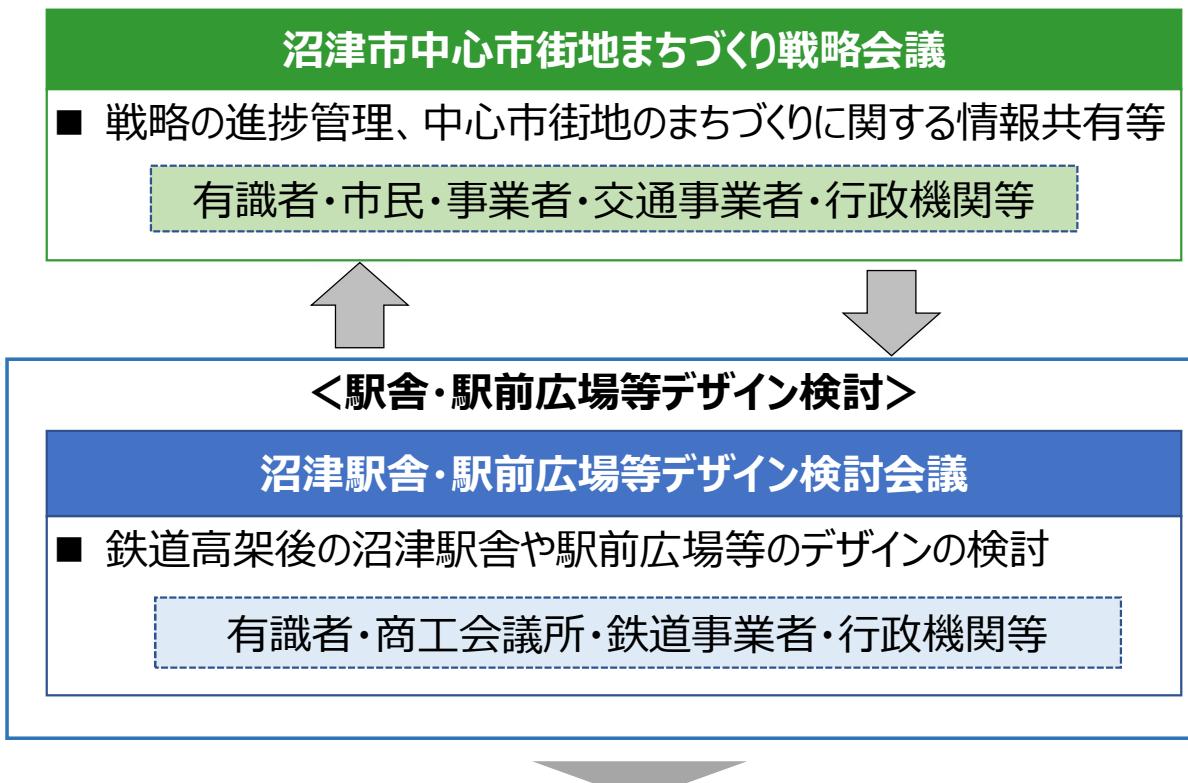


### ＜アーバンシェルター＞

- 機能面とデザイン面の両立の検討。
- シェルター下の滞在機能の検討。
- 快適性・利便性の向上に資するサブシェルターの検討

# 今後について

- 「中心市街地まちづくり戦略会議」や「デザイン検討会議」で議論するとともに、**関係各所と協議**を行う。
- オープンハウスやワークショップなど、様々な機会を通じて、**市民意見を聴取**する。
- 令和8年度末の「**デザイン基本計画**」策定・公表に向けて、検討を進めていく。



✓ **デザイン基本計画 策定・公表**

## スケジュール

